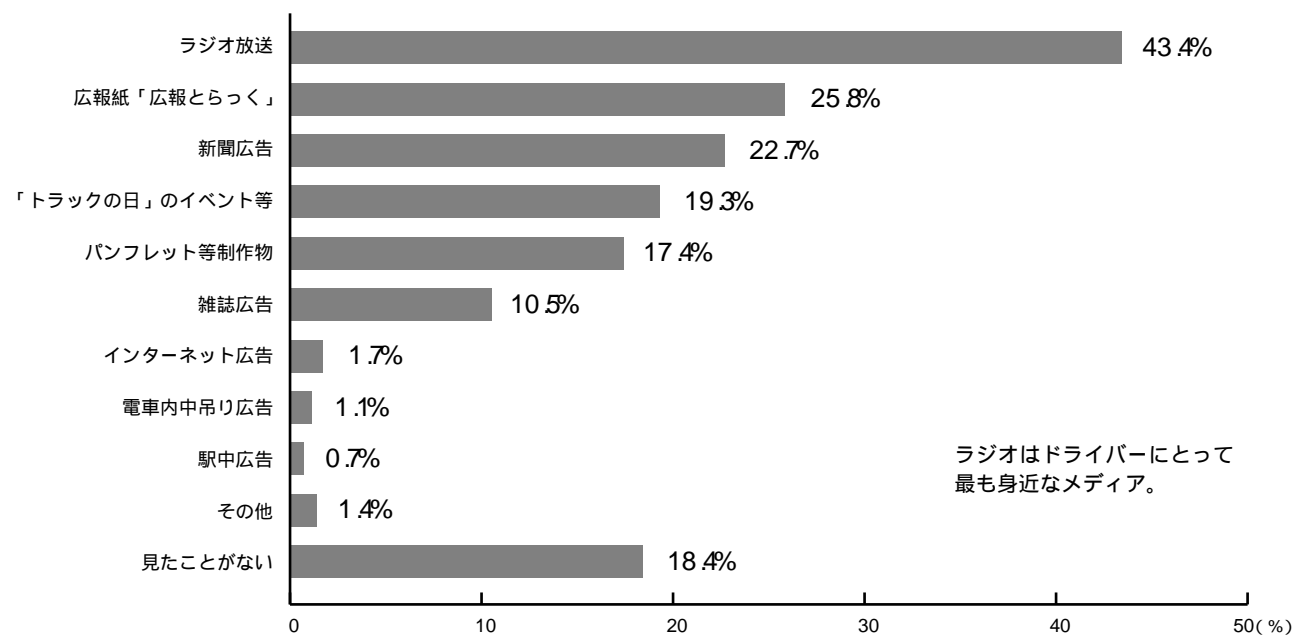
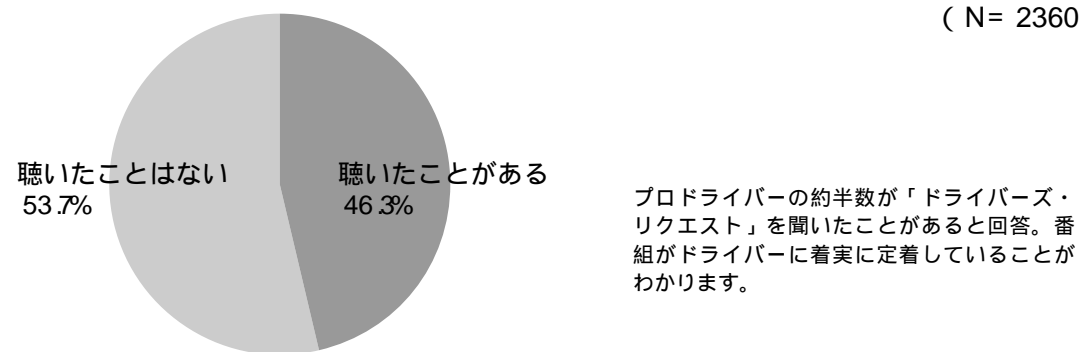


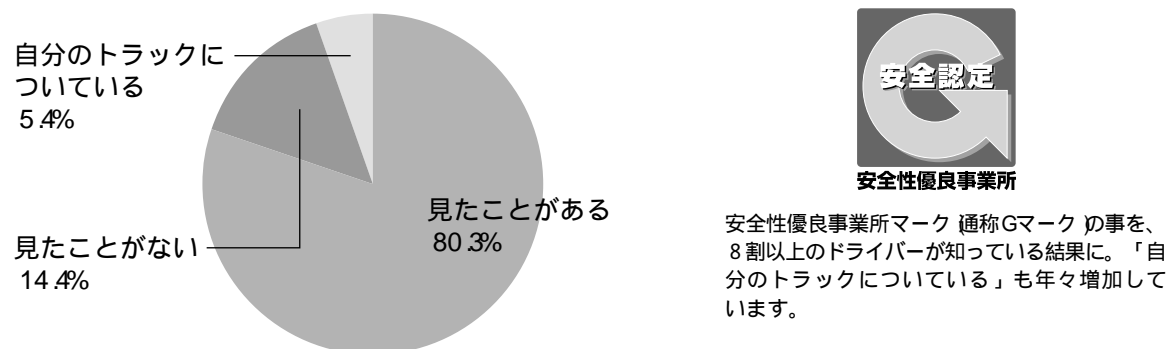
9 全日本トラック協会の広報活動のうち、見たことがある、聞いたことがあるものをすべてあげてください。 (N= 2294)



10 全日本トラック協会が提供する、全国のTBS系ラジオ局で午後1時～午後4時の時間帯で放送しているラジオ番組「ドライバーズ・リクエスト」を聞いたことがありますか。 (N= 2360)



11 安全性優良事業所のマーク (通称：Gマーク) のステッカーをつけたトラックを見たことがありますか。 (N= 2360)



まとめ

わが国の自動車運転免許保有者数は79,329,866人(平成18年末現在)で、このうち営業用トラックドライバーは、864,320人(16年度末)と約1%にすぎません。しかし今やトラック輸送は国内貨物輸送のトン数で約9割、トンキロでも約6割を占める物流の基幹産業です。日本のこの高度な経済活動や豊かな国民生活を根底で支えているのが、トラックドライバーの皆さんなのです。

しかしトラックドライバーを取り巻く環境は他産業と比較しても、必ずしも良好とは言えません。トラック運送業界は、規制緩和により事業者数が大きく増加しているにもかかわらず、輸送需要はそれほど伸びず、運賃の低迷が続いています。また、安全・環境対策などへのコスト負担の増加や軽油価格の高騰が追い打ちを掛けています。その結果として長時間労働や賃金の低迷などトラックドライバーにも大きな負担がかかっています。

そうしたドライバーの大きな負担が、アンケート結果からも読みとれます。ドライバーの平均賃金はアンケートの平均では302,370円、全産業334,910円(厚生労働省：毎月勤労統計調査年報平成17年)と比較して、低い水準となっています。また、道路貨物運送業の平均年間労働時間は2,260時間(同)で、全産業1,829時間(同)を大きく上回っていることから、時間あたりの賃金が低いことが特徴になっています。アンケートからも「給料を少し増やして欲しい」と回答したドライバーは70.1%で、「休日を増やして欲しい(32.6%)」、「定年後の生活を保証して欲しい(31.3%)」、「労働時間を短縮して欲しい(26.7%)」と続きます。休日の過ごし方としては、「体を休め寝ころんでいる」と回答するドライバーが47.3%と、半数近くを占める結果となっています。

このように、大変な仕事のトラックドライバーですが、健康の面でも危惧される結果がでています。トラックドライバーの喫煙率は71.4%、日本の成人男女の平均喫煙率の26.0%と比較すると、非常に高い割合となっています。喫煙の理由として、「眠気防止(41.9%)」、「いろいろ防止(36.2%)」と回答するトラックドライバーが多いことから、仕事の性質上やむを得ず喫煙し

ていると考えられます。

プロドライバーには、安全運転と環境にやさしい運転のお手本としての役割が求められています。アンケート結果によると、安全運転のため最も心掛けていることは、「スピードを出しすぎない(72.6%)」、「車間距離を保つ(64.1%)」をあげています。また、環境に配慮したエコ・ドライブが目立っていますが、「アイドリング・ストップを行う(80.4%)」、「経済速度で走る(82.8%)」、「定速走行の励行(93.5%)」、「急発進、急加速、急ブレーキをしない(93.7%)」などのエコ・ドライブを実践しているトラックドライバーが全体の8割以上を占めています。また、軽油価格が高騰を続け、燃料費削減のためにエコ・ドライブ(アイドリングストップ、定速運転等)を実践していると回答したドライバーは52.6%にのぼり、トラック運送事業者にとって非常に深刻な問題である燃料問題は、ドライバーにも様々な取り組みが求められています。

トラック運送業界は、経済活動や国民生活を支える公共輸送機関として、国内貨物輸送の大半を担っていますが、原油価格の高騰、運賃の低迷、世界一高い高速道路料金、9種類に及ぶ重い自動車関係諸税の負担など様々な課題が山積しており、これまでにない危機的状況にあります。このようななか、トラック輸送を支えているのがトラックドライバーです。わが国では今後、本格的な少子高齢化社会を迎え、労働力の確保、とくに若年労働力の確保が重要なテーマとなります。

また、現下のトラック運送業界では燃料価格が高騰を続け厳しい経営環境にあり、トラックドライバーの労働環境も他の産業と比較して一層厳しいものとなっています。

このような環境の下で、良質な労働力を確保するには、労働環境の改善を図り、魅力ある業界とすることが重要であり、このためにも適正な運賃の収受が不可欠です。

今後も豊かで快適な国民生活を支えていくためには、トラック輸送に対する国民の皆さんのご理解が欠かせません。安心・安全な輸送サービスを提供するためトラック運送事業者、さらにはトラックドライバーも日夜頑張っています。